

ビールの空タルを利用したハブトラップの試験

西村昌彦

Tests of habu-traps of plastic and alminum beer-kegs

Masahiko NISHIMURA

I はじめに

現在、ハブ支所にて開発後市販されているハブ捕獲器は、効率が悪くかつ高価であるため、安価で大量に使用できるハブトラップの開発は、ハブ駆除対策における課題の1つである。

一方、殺蛇剤として使用可能なKClは、疑似餌などが未開発の現時点では、ヒヨコに装着するしかないが、その際ネコなどの妨害動物の攻撃からヒヨコを保護するための簡易な容器が必要である。

ここでは、近年大量に出回っているビールの空タルを用い、上記の必要性を満足させるハブトラップを数種試作し試験した結果を報告する。

なお、試作・試験に際しては、ハブ支所の職員・非常勤務職員以外では、沖縄国際大学宮城邦治氏にお世話になった。以上の方々に感謝する。

II 方法および結果

1 材料と構造

材料は、おもに2 l (少数は1.5 l、3 l) のビール空タルのアルミとプラスチック製のものを、ほぼ半数ずつ用いた。

構造は、図1,2に示した3通りを試みたが、1983年5～7月の試験の結果、E型は設置が面倒なこと、妨害動物にヒヨコをさらわれやすいこと、また、E型とL型は大きいハブにとっては容量が小さいことから、2Lにおちついた。

入口の構造は、大小試みた結果、図1に示した大きさが、ハブやヒヨコが逃げにくく、ハブの捕獲がみられた。後述のように、この大きさでは小さいハブは逃げると思われるが、中程度の大きさのハブでもつかえることがあった。なお、中程度の大きさのハブ(頭胴長115cm)は、太い部分で直径約1.8cmである。

2 タルの中に入れたもの

試験の目的に応じ、以下のものを中に入れ、ハ

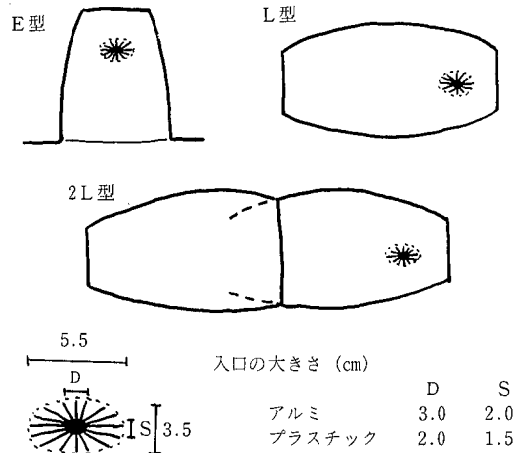


図1 実験した3種類のハブトラップとその入口の大きさ。中央のD×Sは切り取る部分。

ブの捕獲をねらった。

1) ベイトとして

ヒヨコ：安価、かつKClを装着しハブを殺した例あり。

哺乳類の排泄物：おがくずと混合したもの。

1タルにひとつかみの量を用いる。

哺乳類は、マウス、オキナワハツカネズミ(*Mus caroli*)、リュウキュウジャコウネズミ(*Suncus murinus*)を用いた。

2) 産卵用の穴として

空

枯葉：タルの底に敷く。

土： //

3 試験に用いた場所

表1に試験の日程を示す。各場所の特長は、

ハブ槽：3槽とも数m四方の檻の中に、10個体前

表1 試験の日程と内容

| 期 間 月/日-月/日 | 場 所 | 環 境 | タイプ | **台数 | 中に入れたもの | その他 |
|----------------|---------|--------|----------|------|--------------------------|--------------------|
| 1983年 | | | | | | |
| 5/18-5/25 | 浦添市経塚 | 林 | E, L | 25 | ヒヨコ | 4カ所 |
| 5/25-6/8 | 〃 | 〃 | E, L, 2L | 7 | ヒヨコ | 1カ所 |
| 5/25-7/17 | ハブ支所 | ハブ槽 | E, L, 2L | 6 | 空、ヒヨコ、マウス糞尿 | 3 槽 |
| 6/16-7/15 | 南風原町喜屋武 | 林、ススキ原 | 2 L | 15 | ヒヨコ、マウス糞尿 | 8カ所 |
| 7/19-8/4 | 大宜味村喜如嘉 | 林 | 2 L | 30 | ヒヨコ、マウス糞尿 | 12カ所 |
| 10/19-12/1 | 〃 | 林 | 2 L | 30 | ジャコウネズミ・ オキナワハツカネズミ糞尿 | 12カ所 |
| 1984年 | | | | | | |
| *5/29-7/30 | 西原町棚原 | 林 | 2 L | 24 | 空、土、枯葉 | 2カ所 (うち1は土でおおう) |
| *6/15-8/8 | 大宜味村喜如嘉 | 〃 | 2 L | 20 | 空、土、枯葉 | 2カ所 (うち1は土でおおう) |
| 10/4-11/8 | 〃 | 〃 | 2 L | 17 | ジャコウネズミ糞尿 | 8カ所 |
| 10/11-11/13 | 那覇市崎山 | 林縁 | 2 L | 17 | ジャコウネズミ糞尿・マウス糞尿 | 6カ所 |

* 産卵雌の捕獲をねらったもの。 ** 同時使用した最大の台数。

後のハブ（一部はアカマタも含む）が飼育されている。飼育下・高密度の条件で、ハブがタルに入るかをみた。

浦添市経塚：手近なハブの生息する林。過去の経験から、捕獲器に対する妨害動物もあり、その効果も試験の対象とした。

南風原町喜屋武：1981年11月に、沖縄県公衆衛生協会が、KCIを装着したヒヨコを用い、5個体のハブを殺した地点と同じ。ハブの高密度生息地と仮定した。

西原町棚原：手近、かつハブ捕獲器による捕獲成績のいい石灰岩の多い林。

大宜味村喜如嘉：沖縄島北部の2次林。ハブ捕獲器を用い、安定した捕獲成績を継続中。

那覇市崎山：手近でハブの生息する林。

4 捕獲結果

ハブ槽内では、E・L・2L型ともハブの捕獲がみられ、総数は、ハブ13個体、アカマタ2個体であった。それ以外にも、ハブに攻撃され死亡したヒヨコが計10個体みられた。これは、槽内の小さいハブがタルに入り、攻撃後脱出したものであろう。槽内の実験の後期では、ヒヨコ入り2L型を用い、1夜目は6台中の5台、2夜目は5台中の4台で、ハブの捕獲またはヒヨコへの攻撃がみられたため、以降は野外試験を中心に行なった。

種々の場所における野外試験の結果は、ハブやハブ卵の捕獲やハブのヒヨコへの攻撃の痕跡も皆

無であった。

以下に注目すべき結果を羅列する。

- 1) ハブ槽内で捕獲されたハブの頭胴長(cm)の例。89、*98、103、*106、110、111、121、123、132 (*卵保有雌)。なお、アカマタは頭胴長96cm。
- 2) 1タルに2個体のハブが入ったことあり。
- 3) ベイトなしのタルに入ったことあり。このことや、産卵雌が入ったことが、タルを産卵穴として試験するきっかけとなる。
- 4) タル内におけるヒヨコの最大寿命は3日。なお、日光直射下でも、2.5hrは生存した。
- 5) タル内のマウス排泄物の臭いは、タルに水が入らなければ、1ヶ月以上有効。
- 6) 今回用いた哺乳類の中では、排泄物臭はジャコウネズミが最強。

III 考察

今回の試験の失敗因としては、

- 1) ヒヨコの寿命が短い。
- 2) 用いた排泄物に、ハブを誘引する効果がない。
- 3) 入口の構造が悪く、野外ではハブは入らない。
- 4) 野外では産卵穴が多く、今回は雌がタルに出合う機会がなかった。実際、石灰岩のない林においても穴は多い³⁾。
- 5) 産卵雌は、産卵穴を5月以前に決めてしまう。
- 6) タルが産卵穴として適さなかった。

ことなどが考えられる。

大宜味村や南風原町における捕獲努力は、ハブ捕獲器を用いたなら、数個体のハブの捕獲が予想される^{4,5)}。しかるに、今回の捕獲数が零であったことは、ビールのタルが廃棄物ゆえ大量に使用可能とはいえ、構造やベイトなどで大きな改良点が考えられない現時点では、これ以上の試験の継続は無意味である。

IV 文献

1) 西村昌彦, 新城安哲, 比嘉清文, 西江聡, “殺蛇剤(KCl) 散布の予備実験—野外におけるヒヨコの利用の検討—”. 沖特報., V, p.73-80 (1982).

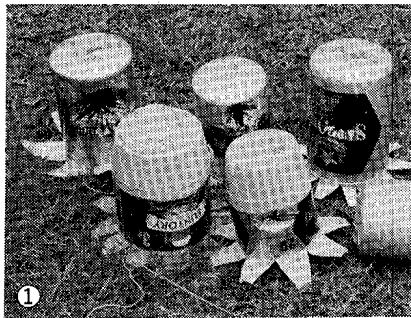
2) 西村昌彦, “ハブの体の幅と長径—通過可能なすき間と穴の大きさの推定—”. 沖特報., VII, p. 71-74 (1984).

3) 西村昌彦, “糸まき法によるハブの追跡 I”. 沖特報., VI, p.51-65 (1983).

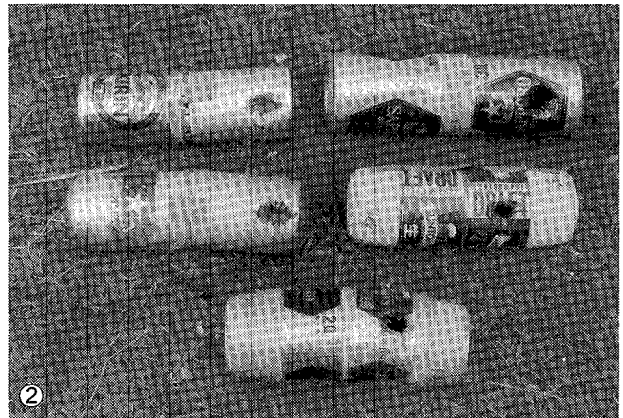
4) 西村昌彦, “ラインセンサスと捕獲器によるハブの相対密度の推定 I”. 沖特報., VI, p.31-43 (1983).

5) 城間伴, 新城安哲, “ハブ生息密度推定の試み”. 沖特報., VIII, p.45-52 (1985).

注) 沖特報. は、沖縄特殊有害動物駆除対策基本調査報告書 (沖縄県).



① 初期のD型トラップ
② 2L型トラップ



③ 2L型トラップ (展開).
④ トラップ。入口の切り込み。
⑤ トラップ設置風景。

